



# 利根山光人

Toneyama Kojin

第81号 平成26年4月23日

## 記念美術館通信

Memorial Art Museum News Letter

〒024-0043 岩手県北上市立花15-153-2

TEL/FAX 0197-65-1808

### 平成26年度絵画教室が始まりました

毎年好評を得ている利根山光人記念美術館絵画教室は4月12日、開講式を行いました。10人の受講生の中には絵画初心者や油彩未経験者も多く、開講式の後に行われた講座を熱心に受講していました。教室は4月から11月までの毎月2回、全16回。指導をするのは同館千田浩文専任研究員。前半はデッサンやスケッチなど絵画の基礎、後半は油彩の実技を学び、作品の完成を目指します。



昨年度の講座の様子



昨年度の修了展の様子

#### 「絵画教室の思い出」

絵画教室に申し込んでみようかと娘と相談し、申し込んでみたら二人ともOKが出た。何も考えず第1回目の授業に参加したら、例年は希望者多数で抽選になるという人気教室。今更ながら運が良かったと思っています。私は63才だが、40数年ぶりに絵筆を手にする事になり最初のデッサンの時など手が震え、木炭で真っ直ぐ線が引けずそんな自分に驚き、この先大丈夫かなと少し不安になりました。それでも回を重ねる度に少しずつ慣れ、

気がつくとモチーフに集中している自分がいました。家へ帰ると着ていた服のあちこちには絵の具の汚れ。カミさんにも叱られ…遠い昔にただ絵を描くことが大好きだった「少年」に戻っていました。これから先、どんな「少年」が待っているのか、それを楽しみに娘に負けずに遊んでみようと思っています。「少年」に出逢えたのも、御指導頂いた千田浩文先生をはじめ市の担当の方々、そして何よりも一緒にこの教室に通って学んだ仲間のおかげだと思っています。本当にありがとうございました。

高橋 徹さん (平成25年度修了生)

#### 〈画伯との思い出〉

「アディオース!!」

祖父は私が8歳の時に亡くなったので思い出は少ないが、手をグーパーグーパーしながら大きな声で「アディオース!!」と私を見送る祖父の姿は今でも鮮明に覚えている。豪快で派手で元気で大きな祖父だった。習字を教わる時は「紙を飛び出せ! 払いは大きく!」と言われたおかげで、今も紙に名前を書くときは「人」の字が枠からはみ出してしまうようになった。



#### 〈好きな画伯の作品〉

祖父が亡くなって1年後、私が初めて模写した祖父の絵。元々100号以上あるこの絵を小さなキャンバスに模写をした。小さなドンキホーテを更に小さく描くのに、格闘した思い出がある。遠くへ消えて行くドンキホーテと祖父の姿が重なったのかもしれない。

尾崎健人さん (利根山光人の孫)

画伯の名前の「人」の字をもらい、現在は、画伯のように世界を飛び回り、途上国開発の現場で開発コンサルタントとして働く。



「嗚呼」

## 「遺したい北上の風景画」



消えゆく日本の風景、懐かしい里、そんな題材を探し求め出会ったところが、黒岩のお滝さんでした。5月、新緑、崖の斜面の雑草、そして木々、鮮やかな明暗の対比が美しく、また、水の音が心地よく流れていく風景に、ついうっとりしました。近くには水車小屋があり、田んぼ、あぜ道、雑草、そして菜の花も咲き、まさに春が来たという感じでした。郷愁と懐旧、いつまでも自然とともに暮らしていただける場所であってほしい。

松田日出子さん  
(利根山光人記念美術館光の会)

### —「遺したい北上の風景画」募集—

応募希望の方は、北上市まちづくり部生涯学習文化課 (0197-72-8304) までお問合せください。



踊る女神 (インド)

## 利根山光人記念美術館企画展開催中 『利根山光人—世界スケッチ歩き第2弾—』

会期：平成26年4月1日(火)～5月29日(木)

昨年度に引き続き、第2弾として利根山夫人から借用した当美術館では初公開となる作品を中心に展示しています。

利根山光人は若い頃、教職を退きメキシコに渡り、シケイロスやリベラなどの作品からマヤ文明や現代美術を学び、作品制作のため世界各地にモチーフを求めて巡っています。その後もヨーロッパに限らず、インド、中国、タイ、カンボジアにも出掛け、「インドの神々シリーズ」「悠久の中国スケッチの旅」などを残しています。今回はその一部を御覧いただけます。

また、市民が所蔵している利根山画伯の作品も特別展示しています。

## —美術館・展示会巡り—

### 1. 朝倉彫塑館

釜石在住の音楽家のご夫人が日暮里出身で、朝倉彫塑館を紹介されました。昨年秋まで修復工事のため閉館中でしたが、2月の上京の折に訪れることができました。谷中銀座へ行く石段の少し手前を左に曲がるとすぐのところにあります。

朝倉文夫のブロンズの作品「墓守」「犬、臥たるスター」等々、明治時代の素晴らしい作品が並び、猫だけのコーナーも楽しめます。作品もさることながら、主要な建造物が国の有形文化財に登録、敷地全体も「旧朝倉文夫氏庭園」として国の名勝に指定されており、自ら設計したアトリエ、洋書数百冊がある書斎、住居、中庭も見ごたえがあります。ブロンズ像が展示されている屋上庭園からは、360度見渡せる都心の風景にスカイツリーもうっすらと見えます。

最近、東京の美術館を紹介する本が出版されましたが、巻頭に彫塑館が特集されており、上京の際にはぜひご覧になるようお勧めいたします。

高橋喜一郎さん(利根山光人記念美術館友の会 会長)



「吊された猫」



「墓守」



「天王寺玄関より中庭をのぞむ」

### ■平成26年度の利根山光人記念美術館専任研究員を紹介します。

ちだ ひろぶみ  
千田 浩文

たかぎ しゅんじ  
高木 俊士

たかはし ひらみつ  
高橋 平光

よろしくお願ひします。